

複数形接尾辞「ら」「ども」の使い分けに関する一考察

—BCCWJ データを用いて—

藤本 珠笛

【キーワード】

複数、接尾辞、「～ら」、「～ども」、BCCWJ

【要旨】

本稿は、複数を表す接尾辞「ら」「ども」における使い分けについて、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて実態調査を行い、前接語に着目して考察を行った。調査の結果、全体的に「ら」と共起する前接語と「ども」と共起する前接語に二分化しており、「ら」は人称代名詞・人称代名詞以外の前接語ともに謙譲と蔑視の双方の意で用例がみられた。一方、「ども」は主に一人称代名詞「わたくし」と共起して謙譲の意で使用され、人称代名詞以外の前接語との共起では蔑視の意で使用される傾向にあることがわかった。さらに、「ら」に比べて「ども」の方が敬意と蔑視の両極の意が強く表れやすいことなども明らかになった。以上の結果を踏まえ、「ら」と「ども」の使い分けについて、話者の感情と指示対象との距離における関連性を示し、図式化した。また、日本語学習者への指導に関して、提示するポイントの提案を行った。

1. はじめに

複数を表す接尾辞には「ら」「たち」「がた」「ども」があるが、これらの4つの複数形接尾辞のうち、「ら」「ども」はともに謙譲と蔑視の意を持ち合わせている。しかし、以下の用例のように「ら」と「ども」はそれぞれの条件によって使い分けが行われているといえる。

- | | |
|---------------------------------|------|
| (1) 百姓 {ら／ども} が暴動を起こした。 | (作例) |
| (2) ガラの悪いやつ {ら／?ども} に睨まれた。 | (同上) |
| (3) 現在は、息子 {ら／ども} が事業を引き継いでいます。 | (同上) |
| (4) わたくし {*ら／ども} にお任せください。 | (同上) |

(1) では、蔑視の表現として「ら」「ども」のどちらを使用しても自然な表現となるが、同じく蔑視の表現である (2) の場合では「ら」の方が自然である。また、(3)

(4) は謙讓表現であるが、(3) ではどちらも使用可能であるのに対し、(4) では「ども」が自然であり、「ら」を用いると不自然である。日本語母語話者はこのような使い分けを日常的に行っているが、日本語学習者にとっては難しいものなのではないかと考える。本稿では、この複数形接尾辞「ら」「ども」について、どのような条件下で使い分けが行われているのかを明らかにすることとする。

2. 先行研究

『日本国語大辞典』の記述によると、接尾辞「ら」は「主として人を表わす語また指示代名詞に付いて、複数であること、その他にも同類があることを示」し、「人を表わす名詞や代名詞について、謙遜また蔑視の意を表わす」とされている。また、接尾辞「ども」は「自称の代名詞、または自分の身内の者を表わす名詞に付けて、単数・複数にかかわらず、謙遜した表現として用い」、「人を表わす場合は「たち」に比べて敬意が低く、目下、または軽蔑すべき者たちの意を含めて用いる」などと定義されている。このことから、「ら」「ども」がともに複数の意を示し、謙讓または蔑視の表現で用いられることがわかる。しかし、辞書記述の制約はあるが、両者の違いが明示されたわけではない。

複数形接尾辞に関する先行研究は野元（1978）や森田（1980）、梅原（1995）などがある。複数形接尾辞の使い分けについては、「ら」「たち」の使い分けに関する研究として鄭（2001）、鄭（2013）、朴（2014）、肖（2020）、藤本（2022）などが挙げられる。これらの先行研究では、聞き手包含・非包含による使い分けやグループに対する認識の違い、フォーマル度による使用場面の違いなどについて指摘されている。また、「たち」「ども」の使い分けに関しては、歴史物語を対象に分析した浦部（1968）や植村（1994）などの研究があり、「たち」と「ども」の待遇差について述べられているが、「ら」「ども」の使い分けに関する研究はまだ少なく、考察の余地があると考えられる。たとえば、野元（1978）は、「ども」について、接続する語を低める「ども」のはたらきによって話し手側に関して述べる場合に謙讓語と共起しやすくなるとし、「ら」と「ども」の違いについて「ぼくたち」「ぼくら」の自然さと「ぼくども」の不自然さを挙げ、敬意の度合いの観点から「謙讓の度の差があらわれてい」と述べている。また、森田（1980）は、「ら」について、「自称（一人称）の代名詞に付けると謙讓の言い方となり、この点において「ども」と共通する」としたうえで、両者が下位者に対して用いられる点において「ども」は「ら」に比べて用法が狭い」とも述べている。しかし、先行研究では両者の具体的な相違点について明確に示されているとは言い難い。

そこで、本稿ではコーパスによる使用実態の調査によって、人称代名詞や人称代名詞以外の前接語に着目して比較と分析を行い、「ら」「ども」の使い分けを明らかにすることを目的とする。また、それらを踏まえて、日本語学習者への提示について提案する。

3. 調査方法

本研究では、用例データとして国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）中納言版を使用した。このコーパスは多様なジャンルからデータが収集されている大規模なコーパスであるため、使用実態を調査するのに適していると判断した。用例を収集するにあたり、短単位検索を使用し、検索条件としてキーをそれぞれ「語彙素：等」「語彙素：共」に設定し、すべてのレジスターと年代を対象として検索を行った。検索の結果、「語彙素：等」では 168,432 件¹、「語彙素：共」では 50,119 件の用例が得られた。このうち、複数の意を示している「ら」「ども」を調査対象²とし、対象の用例を Excel のランダム関数機能によってそれぞれ 2,000 件ずつ無作為に抽出し、それらを分析対象とした³。

4. 調査結果

本章では、複数形接尾辞「ら」「ども」の前接語に着目し、前接語が人称代名詞の場合と人称代名詞以外の語である場合に分けて分析を行うこととする。

4-1 人称代名詞が前接語の場合

4-1-1 人称代名詞に接続する「ら」

複数形接尾辞「ら」の人称代名詞出現数については藤本（2022）を援用する（表 1）。

表 1 「ら」における人称代名詞別出現数（藤本 2022 : 34）

一人称代名詞	件数	二人称代名詞	件数	三人称代名詞	件数
ぼく	53	おまえ（へ）	17	かれ	538
われ	51	きみ	8	やつ	18
わし	16	あんた	4	あいつ	16
わたし	5	きさま	2	こいつ	10
おれ	4	そなた	2	かのじょ	7
うち	2	てめえ	2	そいつ	3
あたし	1	なんじ	2	こやつ	1
おのれ	1	おたく	1	三人称合計	593
一人称合計	133	おのし	1	全合計	767
		おめえ	1		
		そのほう	1		
		二人称合計	41		

¹ BCCWJ で検索した結果、「語彙素：等」の検索件数が 10 万件以上であったため、レジスターを半分ずつに分けて 2 回検索し、ダウンロードしたデータを使用している。

² 「子ども」のように単数化しているものや、「夜ら」「けれども」といった用法が異なるものなどは調査対象外とした。また、「共々」などの豊語も複数を表すが、本研究では調査対象外とする。これについては今後の課題とする。

³ 本稿で使用する複数形接尾辞「ら」の用例データは、藤本（2022）で使用したデータと同一のものである。

表1を見ると、二人称代名詞と三人称代名詞において「おまえ」「あんた」「きさま」や「やつ」「あいつ」「こいつ」のように軽視や蔑視的な表現である人称代名詞と共起しやすい傾向にあることがわかる。また、藤本(2022)で指摘された三人称代名詞「かれ」との共起が多いことや「われ」「おたく」などの畏まった表現と共起していることも特徴として挙げられる。さらに、一人称代名詞において「おれ」「うち」「あたし」のようなくだけた表現も見られる。また、用例を見てみると、(5)(6)のように待遇差のない中立的な表現や(7)(8)のような畏まった謙譲表現として「ら」が用いられていることがわかる。以下、用例における下線は筆者によるものである。

(5) 確かに彼らはマイペースだ。けれど、それはイタリア社会で自分らしく生きるための術であり、保身のための心得でもある。(PB37_00044, 55700)

(6) 暗くなりかけていた。一人のアラブ人が手に長い銃を持って僕らの方へやってきた。(藤本 2022 : 35 (2), PB39_00245, 52600)

(7) 大川◆ ワイドショーは固定の視聴者が多いので、僕らとしても常に新しいアイデアを見せたい、というところがありますから。プランを考える先生方も、作業されるご主人も、その点では大変なんですよ。

(藤本 2022 : 38 (11), PB4n_00217, 42560)

(8) また、このようにして血を振りかけるのは、われらの偉大なる大祭司キリストの死によってなされた神への謝罪を象徴している。(PB11_00064, 20820)

(5)は「彼らはマイペースだ」というイタリア人への一般的な認識を述べている文で「ら」が用いられており、そのうえで「けれど、……保身のための心得でもある」という考え方も取り上げ、中立的な立場から指示対象を分析している場面で使用されている。(6)は小説の地の文であるが、この文の前後は出来事の羅列が続いており、語り手の感情を伴わない中立的な状況描写の場面で「ら」が使用されている。(5)(6)が中立的な立場による表現であるのに対し、(7)はインタビュー時の発話であるが、「見せたい」という話者の願望を引用的に用いており、話者の主張をやや控えめにすることで謙譲の意を示している場面で「ら」が用いられている。また、(8)は「キリスト」という信仰対象に対して敬意を示すために謙譲表現として「われら」が使用されていると考えられる⁴。

4-1-2 人称代名詞に接続する「ども」

表2は「ども」の人称代名詞別出現数を表したものである。これを見ると、「ども」は主に一人称代名詞と共起することがわかる。なかでも「わたくし」との共起が圧倒的

⁴ 論文の先行研究などで研究者名に「ら」が接続するような形を目にするが、客観的に述べるべき論文において、客観性と畏まりの表現で用いられる「ら」が適しているためではないかと考えられる。

に多く、全体の 9 割以上を占める結果となった。また、「てまえ」「み」「あっし」といった古風に感じられる言い回しの表現との共起も見られた。一方、軽視や蔑視的な人称代名詞は「おまえ」の 1 件のみであり、三人称代名詞との共起も見られなかった。

表2 「ども」における人称代名詞別出現数

一人称代名詞	件数	二人称代名詞	件数	三人称代名詞	件数
わたくし	1446	おまえ	1		0
わたし	22	そのほう	1	三人称合計	0
てまえ	8	二人称合計	2	全合計	1482
み	2				
あたくし	1				
あっし	1				
一人称合計	1480				

用例を見てみると、(9) では話者が聞き手に対して誠意を示している場面で「ども」が用いられており、謙譲の意が表れているといえる。一方、(10) は対等または下位の者に対して意見を求めている場面で呼びかけとして用いられており、やや軽視的な表現に感じられる。

(9) 「奥さん、私どもは決してそんな悪どい商売はいたしません。確かに、同業者の中には、そういう悪質な者がいるのも事実です。しかし、私どもは決してお客様の信頼を裏切るような真似は—」 (OB2X_00165, 17480)

(10) 「(前略) 速やかに帰国し、正成に呼応して挙兵し、先帝のご宸襟を安め奉らんとおもうが、其方どもいかがおもうか」 (LBq9_00230, 72820)

4-1-3 人称代名詞における「ら」「ども」の比較

続いて、「ら」「ども」の人称代名詞別出現数を比較したものが表3である。分析対象の用例各2000件のうち、前接語が人称代名詞である用例数は「ら」が767件で人称代名詞との共起率が38.4%にとどまっているのに対し、「ども」では1,482件で全体の74.1%を占めており、「ども」の方が人称代名詞と共起しやすい傾向にあるといえる。二人称・三人称代名詞では主に「ら」と共起し、一人称代名詞においても「ら」と共起するものと「ども」と共起するものに大きく分けて二分化していることが読み取れる。一方、「わたし」は「ら」の用例数に比べて「ども」の用例数の方が多く表れてはいるが、両者において用例が見られた。次の(11)～(14)の用例は、「わたし」と共起したものである。

表3 「ら」「ども」における人称代名詞別出現数の比較

人称代名詞	ら	ども	人称代名詞	ら	ども	人称代名詞	ら	ども			
一人称	ぼく	53	0	二人称	おまえ(へ)	17	1	三人称	かれ	538	0
	われ	51	0		きみ	8	0		やつ	18	0
	わし	16	0		あんた	4	0		あいつ	16	0
	わたし	5	22		きさま	2	0		こいつ	10	0
	おれ	4	0		そなた	2	0		かのじょ	7	0
	うち	2	0		なんじ	2	0		そいつ	3	0
	あたし	1	0		てめえ	2	0		こやつ	1	0
	おのれ	1	0		おたく	1	0	三人称合計	593	0	
	わたくし	0	1446		おのし	1	0	全合計	767	1482	
	てまえ	0	8		おめえ	1	0				
	み	0	2		そのほう	1	1				
	あたくし	0	1		二人称合計	41	2				
	あっし	0	1								
	一人称合計	133	1480								

(11) 「あのですね」と彼は言った。「私ら、忙しいんですよ。それに真剣なんです。早くこれかたづけてしまいたいんです。私らだって好きでこれやってるわけじゃないです。(後略)」 (OB3X_00111, 47780)

(12) (前略) 八年半たってもまだいまだにそんな状況でございまして、私ら見ておりました、果たしてこれでつくってもそれだけの効用があるんだろうかというような疑問を持つわけなんです。 (OM24_00001, 696580)

(13) 「みなさんが赤字を出しておられるのは、わたしどもの注意が足りなかったからです。今後、取引その他一切の根本的改善をして、みなさんの経営安泰のため、業界の安定のため、本当に努力しなければならないと感じております」 (LBs3_00157, 11760)

(14) 「ビーチであなたを何枚か撮った、と。二人で写っている写真もあったそうですね。それがどんなものなのか、わたしどもは拝見したいんです。(中略) お持ちなら、それをちょっとお貸し願えませんか？」 (LBm9_00214, 51290)

(11) は事情をなかなか話してくれない漁師に対する刑事の発話であり、(12) は国会での発話で、なかなか進まない工事について意見している場面である。(11) (12) ともに話者が聞き手を非難する場面で話者との対立関係が生まれており、この場合の「ら」が表す複数の中に聞き手が含まれないことが強調され、聞き手に対する排他性が感じられる。一方で、(13) は謝罪をしている場面で聞き手に対して誠意を示しており、(14) は聞き手に捜査の協力をお願いするにあたって聞き手に配慮を示していることが読み取れる。どちらも「ども」を用いることによって話し手が聞き手より下手に出ており、謙譲の意が表わされている。したがって、「ら」に比べて「ども」の方が敬意を

より強く表出するのではないかと考える。ほかの一人称代名詞においては「ら」「ども」の双方に用例が表れたものはないが、どちらも謙譲表現として用いられている (15) (16) の用例をしてみる。

- (15) 何か仕事をしたくても、させてもらえない。「ゆっくり休んで下さい」なんていわれて、いや、何か仕事をやりたいんだといっても、「いえいえ、とんでもありません。どうぞお楽にさせていただいて。仕事は**ぼくら**がやりますから」なんていわれて、(後略) (OB5X_00076, 2840)
- (16) ただの一太刀で、熊のような官軍を地に這わした手練に、町役人たちは呆然としていた。「へえ、**あっしども**は、…旦那、へえ、これでも江戸の者でございます。お止めはしやしません、(後略)」 (LBf9_00150, 35620)

(15) は擬人化されたカメラによる中古カメラと若者カメラとのやりとりで、仕事をしたい中古カメラに対して若者カメラが労わっている場面であるが、この場合も (11) (12) と同様に中古カメラへの排他性が読み取れる。一方、(16) は江戸幕府の敵である官軍兵士を倒した聞き手 (=旦那) に対する町役人の発話であり、聞き手に対して敬意を払っているといえる。したがって、「わたし」と共起した用例と同様に、「ども」のほうが「ら」に比べて敬意が強く表れていると考えられる。

4-2 人称代名詞以外の語が前接語の場合

4-2-1 人称代名詞以外の前接語に接続する「ら」

表 4 は「ら」の人称代名詞以外の前接語上位 20 語を示したものである。これを見ると、上位は指示代名詞が占めていることがわかる。

表 4 「ら」における人称代名詞以外の前接語 (上位 20 語) 出現数

前接語	件数	前接語	件数
これ	572	学者	2
それ	190	弁護士	2
なん	137	百姓	2
そこ	31	子	2
やつ (奴)	16	学生	2
ここ	9	生徒	2
どこ	4	者	2
自分	4	首長	2
原告	4	ボランティア	2
カッサー	2	従業員	2

森田 (1980 : 268) は「ら」について、「たち」との比較から「指示代名詞に付けて、事物に対しても用いられる点が「たち」と異なる」と述べている。このことから、指

示代名詞との共起が多いことは「ら」における特徴の一つだといえる。また、「原告」「弁護人」「学者」のような司法や学問に関する語や目下の者に対する語「やつ（奴）」なども見られた。

- (17) 原告らは、この訴訟において、差止めと損害賠償を求めています。夜間飛行の差止めこそ、原告らの求めてやまないところであります。

(LBa3_00027, 77940)

- (18) 食糧費と交際費の違いをどうみるか、学者らでも議論があります。

(LBn3_00171, 43890)

- (19) 「銃を撃った奴のツラを見せろと言うと、見せられないと言うんだ。もうアメリカに帰ったって言うんだよ。(中略) 本当に無礼なヤツらだよ」徐君の父親はこのように怒りをぶちまけた。

(LBp2_00030, 5610)

用例を見てみると、(17) は司法に関する語、(18) は学問に関する語と共起しているが、双方とも客観的な事実を述べた文であり、「ら」は中立性や客観性が求められる司法や学問に関する語との共起に適していると考えられる。一方、(19) は目下に関する語と共起して指示対象を非難しており、蔑視の用法として用いられている。

4-2-2 人称代名詞以外の前接語に接続する「ども」

次に、「ども」と共起する人称代名詞以外の前接語について見てみる。表 5 は「ども」における人称代名詞以外の前接語上位 20 語を示したものである。

表 5 「ども」における人称代名詞以外の前接語（上位 20 語）出現数

前接語	件数	前接語	件数
もの（者）	44	悪党	6
男	26	魔神	5
女	19	蠅	5
人間	16	アホ	5
鬼	11	ばか	5
ヤラウ（野郎）	9	百姓	5
がき（餓鬼）	9	クズ	5
こと（事）	9	バカもの	5
せがれ	8	やつ（奴）	5
役人	7	サル	4

「ヤラウ（野郎）」「がき（餓鬼）」「アホ」「ばか」など相手を見下したり罵倒したりする語が多く見られるが、これらは「ども」における軽視・蔑視的表現での使用だと考えられる。また、「鬼」「魔神」などの恐れや畏敬を抱く対象となる語も見られた。そのほか、「男」「女」のような属性を表す語や「サル」などの動物名詞も見られている。

- (20) 残忍な鬼どもに追われ、血の池や焦熱地獄の苦しみにもだえる亡者たちを描いた地獄絵は、一般民衆の恐怖心を煽り、なんとしても極楽浄土に行きたいという願いをかき立てた。 (LBh2_00053, 14840)
- (21) 「あそこの男どもときたら、みんな、バカみたい。友情だ、名誉だ、決闘だって、年中、大袈裟にわめき立てていて、もう、本っ当にうるさいったら。(後略)」 (LBj9_00255, 59940)
- (22) わたしたちのまわりにいる人たち、これらのフットボール・ファンは、これらの猿どもは、口々に叫んでいた。 (PB49_00354, 1320)

用例を見てみると、(20) は指示対象への恐れからくる差別的な表現であり、(21) も同様に指示対象に対して軽蔑する態度が読み取れる。また、(22) は人間を猿に例えている場面で「ども」が用いられており、これも蔑視表現であるといえる。したがって、「ども」は人称代名詞以外の前接語において、主に軽視・蔑視的場面で用いられるものと考えられる。

4-2-3 人称代名詞以外の前接語における「ら」「ども」の比較

続いて、人称代名詞以外の前接語における「ら」と「ども」について比較を行う。「ら」と「ども」の人称代名詞以外の前接語において、それぞれの上位 20 語の出現数をまとめたものが表 6 である。全体的に「ら」と「ども」のどちらか一方にのみ用例が表れる傾向が見て取れるが、「やつ(奴)」「百姓」「学生」のように、双方に用例がみられるものも存在する。

表 6 「ら」「ども」の人称代名詞以外の前接語(上位 20 語)出現数比較

前接語	ら	ども	前接語	ら	ども	前接語	ら	ども
これ	572	0	子	2	0	こと(事)	0	9
それ	190	0	学生	2	1	せがれ	0	8
なん	137	0	生徒	2	0	役人	0	7
そこ	31	0	者	2	44	悪党	0	6
やつ(奴)	16	5	首長	2	0	魔神	0	5
ここ	9	0	ボランティア	2	0	蠅	0	5
どこ	4	0	従業員	2	0	アホ	0	5
自分	4	0	男	1	26	ばか	0	5
原告	4	0	女	0	19	クズ	0	5
カッサー	2	0	人間	0	16	バカもの	0	5
学者	2	0	鬼	0	11	サル	0	4
弁護士	2	0	ヤラウ(野郎)	0	9			
百姓	2	5	がき(餓鬼)	0	9			

次の(23)(24)は、「ら」「ども」の双方において用例が見られた「百姓」と共起している用例である。

(23) (前略) しきりに駕籠を揺すり、あげくの果ては自ら駕籠から転げ落ち、駕籠の担ぎ方が悪い、無礼であると、助郷で徴発された人足の百姓らに難癖をつけ、なだめに入った村役人から何がしかの金銭をせびり取った。これを「駕籠落ち」という。
(LBo2_00019, 39550)

(24) 司令官 (前略) さあ、息子アイリフ、報告しろ、どうやって百姓どもをぶちのめして二十頭の牛を手に入れたか。牛はもうすぐ着くんだろうな。
(PB49_00283, 30130)

(23) は駕籠に乗った例幣使という人物の悪弊についての歴史的な出来事を中立的な立場から客観的に説明している文であるが、村役人や動作主である例幣使と百姓との相対的な立場から「ら」においてやや軽視の意も含意されているように思われる。したがって、中立性と軽視の意が表れている表現であるといえる。一方、(24) では「ぶちのめす」という語が使用されていることから「ども」における指示対象への蔑視の意が強く感じられる。このことから、「ら」に比べて「ども」の方が負の感情が強く表出しているのではないかと考えられる。同様に、「ら」「ども」の双方に用例が表れた「やつ(奴)」と共起した用例について、(25)(26) を見てみる。

(25) 「銃を撃った奴のツラを見せろと言うと、見せられないと言うんだ。もうアメリカに帰ったって言うんだよ。(中略) 本当に無礼なヤツらだよ」徐君の父親はこのように怒りをぶちまけた。
(再掲(19))

(26) 宋江、腹を立てて、「思いもかけず、手足というべき兄弟たちを、三分の一は失った。敵のやつどもがわしの弟分を峠の上でさらしているのを辛抱できるか。(後略)」
(LBk9_00051, 122570)

(27) 宋江、腹を立てて、「思いもかけず、手足というべき兄弟たちを、三分の一は失った。敵のやつらがわしの弟分を峠の上でさらしているのを辛抱できるか。(後略)」
(作例)

(25)(26) とともに指示対象への蔑視的な表現の用例であるが、(25) ではアメリカ軍の対応を非難し、怒りを示している場面で「ら」を用いており、指示対象への負の感情が表れている。一方、(26) は弟分たちの仇討ちをしようとしている場面であり、怒りに加えて指示対象への憎悪が「ども」によって強く表れているといえる。(26) の「ども」を「ら」に置き換えた(27) と比べても(26) の「やつども」のほうが指示対象を蔑視する意が強まっており、負の感情が強く表れていると考えられる。

5. 考察

調査結果による「ら」「ども」の使い分けを以下の表7にまとめる。

表7 「ら」「ども」における分類ごとの使用実態

	「ら」	「ども」
人称代名詞	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中立的な表現として用いられる ・ 一人称代名詞ではくだけた表現や謙譲表現としても用いられる ・ 二人称代名詞、三人称代名詞では軽視や蔑視的な表現となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に一人称代名詞「わたくし」「わたし」「てまえ」と共起し、謙譲の意を表す ・ 「ら」に比べて謙譲の意が強く表れる ・ 軽視や蔑視的な表現としてはあまり用いられない
人称代名詞以外の前接語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 軽視や蔑視的な表現、または中立的な表現において使用される 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主に軽視や蔑視的な表現で使用される ・ 「ら」に比べて負の感情がより強く表れる

分析の結果、「ども」は人称代名詞、人称代名詞以外の前接語それぞれにおいて、敬意または負の感情が「ら」より強く表れることがわかった。このことから、「ら」に比べて「ども」の方が話者と指示対象との心的な位置関係における乖離が大きいのではないかと考える。それを図式化したものが図1である。

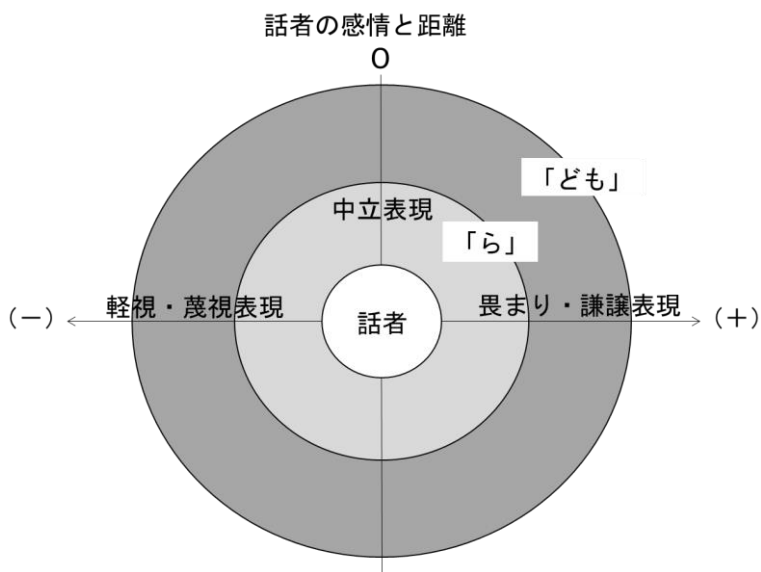


図1 「ら」「ども」における話者の感情と指示対象との距離関係

話者を中心として、同心円状に外に広がるほど話者との心的距離が遠ざかることを意味する。また、横軸は話者の感情を表し、感情のプラス・マイナスがない0（ゼロ）の位置を示す中心線から右に行くほど話者のプラス的な感情が大きくなり、左に行くほどマイナス的な感情が大きくなることを示している。「ら」「ども」の位置関係は、話者を中心として「ら」→「ども」の順に同心円状に領域が存在するものとする。話者から最も遠い位置にあるのは「ども」であるが、「ら」の領域も話者からは一定の距離を持った遠い位置にあるものと捉える⁵と、藤本（2022：42）で指摘されているように、話者と指示対象間の感情におけるプラス・マイナスがゼロの場合は話者と指示対象の一定距離が保たれるため、「ら」において中立的な表現の場面で用いられるのだと考えられる。一方、話者における指示対象への感情がプラスの場合は、話者と指示対象との間に生じる距離が相手の領域に踏み込まないように遠ざけるネガティブポライトネスとして作用することによって謙譲表現になるものと思われる。反対にマイナスの場合は、話者と指示対象との距離間が指示対象を話者の領域から排除しようとする形としてはたらき、軽視や蔑視的な表現で用いられるのだと考えられる。

このように、「ども」においても話者における感情のプラス・マイナスによる用法は「ら」と同様だと考えられる。植村（1994：93）において、『栄花物語』での「たち」と「ども」の使い分けとして（20）のような例を挙げ、「親ども」の説明として登場人物である殿との待遇的な面だけでなく「殿から師たちへと視点が移り、更にその親へと遠くへ叙述が移る」というように視点の移動による客観的叙述についても触れられており、このことから「ども」において対象との距離関係が関連していると考えられる。

- (20) 「これは誰が子ぞ。かれはそれか」など、殿の御前やこの殿ばらなど問はせ給へば、この師たち「それはそれ、かれはかれ」などと申給へば、その親ども召して、「よき子を持たりけるかな」と褒めの給はせて、師たちにも「よき弟子なり。よく／＼したて給へ」などの給はすれば、各親たちなど面目ありて思へり。
（植村 1994：43（21）、巻一六・39）

さらに、「ども」は「ら」に比べてより遠い位置に「ども」の領域が存在すると考えられるため、話者と指示対象との隔たりがより大きくなり、「ら」に比べて「ども」の方が謙譲や蔑視の意がさらに強まるのではないかと考える。

6. 日本語学習者への提示に関する提案

以下、「ら」と「ども」の使い分けに関して、日本語教育における提示に関して述べる。藤本（2022）では複数を表す「ら」について、初級レベルで「かれら」を1語と

⁵ 「ら」における話者と指示対象との距離関係については、藤本（2022）で鄭（2001）の聞き手包含・非包含による使い分けとの関連性について指摘されている。

して提示することが効果的といえる点や、中級レベルにおいて軽視や蔑視などのマイナス的表現で使用されることへの理解を促すこと、また、上級レベルでは中立表現や畏まり表現においての使用を提示することなどについて指摘されている。本稿では、論述などで用いられる「これら」「それら」などの指示代名詞についても多くの用例が見られたため、中級レベルでこれらを1語として提示することは有効的であると考え。「ども」においては、使用頻度が突出して多い「わたくしども」や「わたしども」の謙讓表現について1語として扱い、敬語表現を学習した中級レベルから提示することを提案する。「てまえども」についても耳にする機会があることを考慮し、同様に1語の謙讓表現として扱い、理解を促すことが必要である。また、併せて「ども」が失礼に当たるようなマイナス的表現でも使用されることへの注意を促さなければならない。その際、「ら」「ども」ともにマイナス的表現で使用される場合については産出が好ましくないため、理解を促すにとどめるべきだと考える。

7. 今後の課題

本研究ではBCCWJをデータとして使用したが、やや古風な言い回しなど日本語学習者への提示に不向きな用例も見られたことから、今後会話コーパス等を用いた調査を検討する必要がある。また、書き言葉と話し言葉による比較などについても今後の課題とする。さらに、話者と指示対象の距離による感情との関連性については、日本語母語話者の使用者意識に関するアンケート調査を実施してその実態を明らかにする予定である。アンケートを通して、謙讓や蔑視などの各用法によって発話者による複数形接尾辞の使い分けが行われるのかについても観察を試みたい。複数を表す表現においては、「百姓ら／百姓ども」のように前接する語が複数存在するグループと捉えられる場合と「わたくしども」のように前接する語と異なる存在も含めたグループとして捉える場合がある。また、浦部（1968：54）では「ら」と「ども」の複数意識について、「元来「ども」や「ら」によって表わされる謙讓の意識は、それらが複数をも表わすところから自我の希薄化という作用によって表されるのではないか」とも指摘されている。このようなグループとしての意識は「ら」「ども」に限らず、ほかの複数形接尾辞にも言えることだが、ここで指摘されているような前接語とグループの捉え方の違いについても本稿では扱えなかったため、今後の課題としたい。また、「ら」「ども」それぞれにおいて謙讓や中立、蔑視などの各用法になるのがどのような場合であるのかについても検討し、日本語教育への還元を目指したい。

参考文献

- 植村則子（1994）「栄花物語の複数接尾語「たち」「ども」について」『奈良教育大学国文学研究と教育』16, pp.38-46, 奈良教育大学国文学会
- 梅原恭則（1995）「名詞の敬語法—対社会意識—」『国文学 解釈と教材の研究』40（14）, pp.67-71, 學燈社

- 浦部重雄 (1968) 「大鏡における接尾辞「たち」「ども」の用法」『國語國文』37 (5), pp.47-54, 中央図書出版社
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会編 (2004) 『日本語能力試験 出題基準[改訂版]』 凡人社
- 佐竹秀雄 (1999) 「複数を示す「ら」」『日本語学』18 (14), pp.19-22, 明治書院
- 肖錦蓮 (2020) 「現代日本語における一人称複数代名詞の選択と書き手スタンスの表出—日本語教育の視点から—」『統計数理研究所共同研究レポート』435, pp.1-17, 統計数理研究所
- 鈴木孝夫 (1973) 『ことばと文化』岩波新書
- 竹内直也 (2004) 「これら・それら・あれら—指示詞複数形の「指示」について—」『学習院大学人文科学論集』13, pp.69-89, 学習院大学大学院人文科学研究科
- 鄭惠先 (2001) 「複数を表す「たち」と「ら」の使用における選択条件—シナリオの分析結果を中心として—」『社会言語科学』4 (1), pp.58-67, 社会言語科学会
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編 (2002) 『日本国語大辞典』第二版, 小学館
- 日本語文法学会編 (2014) 『日本語文法事典』大修館
- 野元菊雄 (1978) 「日本語の性と数」『言語』7 (6), pp.14-19, 大修館書店
- 藤本珠笛 (2022) 「人称代名詞における複数を表す接尾辞「ら」「たち」の使い分けについて—BCCWJ による調査から—」『さいたま言語研究』(6), pp. 32-45, さいたま言語研究会
- 三輪正 (2005) 『一人称二人称と対話』人文書院
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 2—意味と使い方—』角川書店
- 손영석 (2013) 「복수를 나타내는 접미사 「たち」와 「ら」의 선택요인 —『대담방송 멀티미디어 코퍼스』를 자료로—」『언어정보』17, pp.47-72, 고려대학교 언어정보연구소
- 박민영 (2014) 「현대 일본어의 복수형 접미사 「～たち」와 「～ら」의 비교 고찰」『日語日文學研究』90-01, pp.43-58, 韓國日語日文學會

使用データ

コーパス検索アプリケーション「中納言」ver.2.4.5 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(<https://chunagon.ninjal.ac.jp>) 2021年4月12日検索

(埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程)